

ALESIS®
MULTIMIX 4 USB FX

ユーザーガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でごご利用ください。
16. 主電源プラグまたはアダプターをコンセントからいつでも抜ける状態にしておいてください。
17. 本装置をアンプに接続して、ヘッドホンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
18. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
19. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部

東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階

[Web] inmusicbrands.jp

[サポート] www.inmusicbrands.jp/support

ユーザーガイド

はじめに

同梱品

MultiMix 4 USB FX

USB ケーブル

電源アダプター

ソフトウェア・ダウンロード・カード

ユーザーガイド/保証書

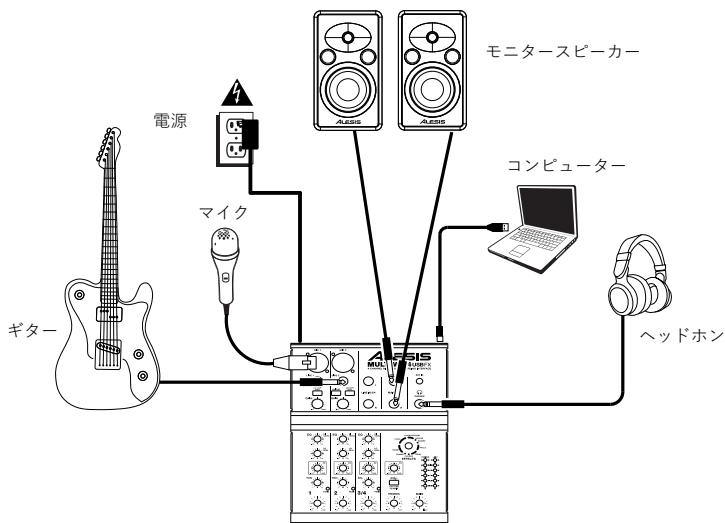
サポート

MultiMix 4 USB FX の最新情報 (システム要件や互換性など) につきましては、製品ページ (<http://alesis.jp/multimix4usbfx/>) をご覧ください。

製品のサポートにつきましては、<http://inmusicbrands.jp/support/> をご覧ください。

セットアップ

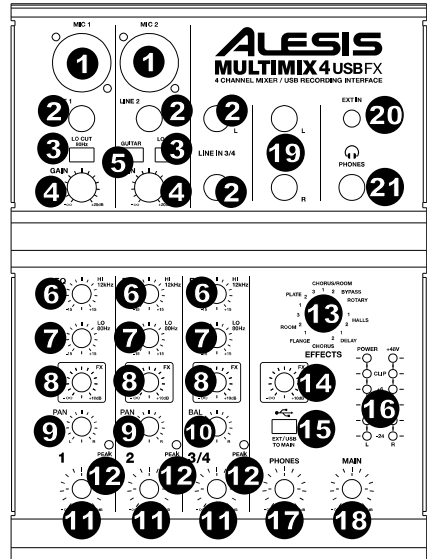
はじめに>同梱品にないものは別売です。



特徴

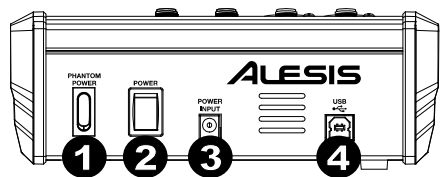
トップパネル

1. マイク入力端子 - XLR (キャノン) ケーブルを使用して、マイクを接続します。
2. ライン入力端子 - 標準プラグ・ケーブルを使用して、ラインレベルのデバイスを接続します。
3. LO CUT スイッチ - このスイッチを押すと、ハイパス (ローカット) ・フィルターがオンになり、80Hz の信号を減衰させます。
4. GAIN ノブ - チャンネルのフェーダと EQ に送られる前のレベル (PRE) を調整します。設定の目安は、曲の最大音量部分で PEAK の LED が点灯するくらいが適切です。
5. GUITAR スイッチ - ギターやベースなどハイ・インピーダンスの楽器を接続する場合に、このスイッチをオンにします。チャンネル 2 のみの機能です。
6. HI EQ ノブ - 高域の周波数帯のレベルを調整します。
7. LO EQ ノブ - 低域の周波数帯のレベルを調整します。
8. FX センド・レベル - 内蔵エフェクタに送る信号レベル (POST) を調整します。
9. PAN - チャンネル 1 とチャンネル 2 の定位 (L~R) を調整します。
10. BAL (BALANCE) - チャンネル 3/4 のバランスを調整します。
11. ボリュームノブ - 各チャンネルの音量を調整します。
12. PEAK LED - 信号が大きすぎてクリップするとこの LED が点滅します。その場合は、GAIN ノブやボリュームノブで音量を抑えてください。
13. EFFECTS セレクター - 内蔵エフェクタの種類を選びます。各チャンネルのかり具合は、それぞれの FX センド・レベルで調整します。詳しくは、後述のエフェクトの項目をご参照ください。
14. FX リターン・レベル - 内蔵エフェクタの出力音量を調整します。
15. EXT/USB TO MAIN スイッチ - このスイッチをオンにすると、EXT 入力端子および USB 端子経由のコンピューター・ソフトウエアからの音声信号をミキサーのメイン出力 (とヘッドフォン出力) にルーティングします。
16. LED メーター - メインミックスのレベルを表示します。頻繁に CLIP LED が点灯する場合は、メインボリュームを下げてください。
17. ヘッドホンレベル - ヘッドホン出力の音量を調整します。
18. メインボリューム - メイン出力の音量を調整します。
19. メイン出力 - 1/4 インチ TRS プラグで、外部のアンプやスピーカー、レコーダなどに接続します。音量は、メインボリュームで調整します。
20. EXT 入力 - 1/8 インチ TRS プラグで、テープデッキや CD プレーヤー、MP3 プレーヤーなどを接続します。EXT/USB TO MAIN スイッチを押すことで、メイン出力にルーティングします。
21. ヘッドホン出力 - ヘッドホンに接続します。



リアパネル

1. ファンタム電源 - このスイッチでファンタム電源のオン・オフを行います。オンの場合、XLR マイク端子に接続したコンデンサマイクに、+48V の電源が供給されます。一般的には、ダイナミックマイクではファンタム電源は不要です。お使いのマイクをご確認ください。
2. 電源スイッチ - MultiMix 4 USB FX 本体の電源のオン・オフを行います。電源を入れる場合は、接続されているアンプやスピーカーの電源を入れる前にミキサーの電源をオンにしてください。電源を切る場合は、アンプやスピーカーの電源を切ってからミキサーの電源をオフにしてください。
3. 電源コネクター - 付属の AC アダプター (18V DC、800mA、センタープラス) を接続します。
4. USB 端子 - 付属の USB ケーブルを使用して、MM4USB FX とコンピューターを接続します。



操作

MultiMix 4 USB FX をデフォルトの再生デバイスとして設定するには、コンピューターのオペレーティングシステムに基づいて以下の手順に従ってください。

* コンピューターに他の USB オーディオ機器を同時に接続している場合は、Multi Mix4USB FX を認識させるため、両方の機器の設定が必要になることがあります。

Windows :

1. 付属の USB ケーブルを使用して MultiMix 4 USB FX をコンピューターに接続し、電源スイッチで電源を入れます。
2. タスクバーのスピーカーアイコン (音量コントロール) を右クリックし、出力デバイスを選択します。
またはスタートメニュー > コントロールパネル (クラシック表示では設定 > コントロールパネル) > ハードウェアとサウンド > サウンドに移動します。
3. サウンドコントロールパネルで再生タブを選択し、既定のデバイスとして USB AUDIO CODEC* を選択します。
4. 録音タブをクリックし、既定のデバイスとして USB AUDIO CODEC* を選択します。
5. 右下隅にあるプロパティをクリックします。
6. 詳細タブをクリックし、規定の形式として 2 チャンネル、16 ビット、44100Hz (CD の音質) を選択します。
7. 排他モードのチェックボックスを外します。
8. OK を押してプロパティウィンドウを閉じます。
9. OK を押してサウンドコントロールパネルを閉じます。

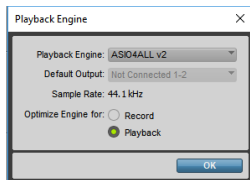
macOS :

1. 付属のUSBケーブルを使用してMultiMix 4 USB FXをコンピューターに接続し、電源スイッチで電源を入れます。
2. アプリケーション > ユーティリティ > オーディオ MIDI設定に移動します。
3. オーディオ装置ウィンドウの左側の列のUSB AUDIO CODEC*を選択します。
4. USB AUDIO CODEC*を右クリックしてこのサウンド入力装置の使用を選択します。
5. USB AUDIO CODEC*を右クリックしてこのサウンド出力装置の使用を選択します。
6. Audio MIDI設定を終了します。

MultiMix 4 USB FX と Pro Tools | First Alesis Edition の設定

Windows :

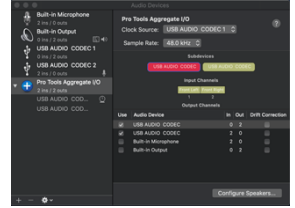
1. asio4all.orgでPC用ASIO4ALLドライバー (フリーウェア) をダウンロードしてインストールします。ASIO ドライバーはオーディオデバイスとソフトウェア間の通信を効率的に行なうことにより一般的に遅延が少なくなります。
 2. ASIO4ALL アプリケーションを開き、Device List から USB AUDIO CODEC* を選択します。
 3. 付属のUSBケーブルでMultiMix 4 USB FX をコンピューターに接続し、電源スイッチで電源を入れます。
 4. Pro Tools | First Alesis Editionを開きます。
 5. 設定 > プレイバック エンジン... に移動します。
 6. プレイバック エンジンのドロップダウン・メニューよりASIO4ALLを選択します。
- 注：プロジェクトを保存して再起動する必要がある場合があります。**
7. サンプルレートを選択してOKをクリックして設定ウィンドウを閉じます。
 8. 設定 > I/Oに移動しASIO4ALLを入/出力デバイスに設定します。



macOS :

Pro Tools | First Alesis Editionを使用の際にMultiMix 4 USB FXからオーディオを送受信するためには、Aggregate Deviceを作成する必要があります。

1. 付属の USB ケーブルで MultiMix 4 USB FX をコンピューターに接続し電源スイッチ入れます。
2. アプリケーション > ユーティリティ > オーディオ MIDI 設定に移動します。
3. オーディオ装置ウィンドウで **Pro Tools Aggregate I/O** を選択します。
4. Clock Source で USB Audio Codec 1 を選択します。
5. USB Audio Codec の両方の Use ボックスがオンになっていることを確認します。



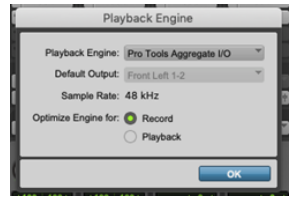
また、Pro Tools | First Alesis Edition に対するマイクアクセスを許可するために、コンピューターのプライバシー設定を調整する必要があります。

1. アプリケーション>システム環境設定>セキュリティとプライバシーに移動します。
2. プライバシータブからマイクを選択します。
3. Pro Tools First がマイクへのアクセスを許可されていることを確認します。これによりMultiMix 4 USB FXでPro Tools | First Alesis Edition に録音することができます。



この手順の後、新しいアグリゲート・デバイスの設定がソフトウェアで可能になります。

1. Pro Tools | First Alesis Edition を開きます。
 2. プレイバック エンジンのドロップダウン・メニューから **Pro Tools Aggregate I/O** を選択します。
 3. サンプルレートを選び OK を押して設定ウィンドウを閉じます。
- 注：プロジェクトを保存して再起動する必要がある場合があります。**
4. 設定>I/O に移動し **Pro Tools Aggregate I/O** を入出力デバイスに設定します。



これで、トラックを追加して MultiMix 4 USB FX 入力に接続された機器とオーディオ/MIDI を送受信したり、録音されたオーディオを MultiMix 4 USB FX から出力することができるようになりました。

エフェクト

エフェクトを使用するには：チャンネルの FX センド・レベルを上げ、その後に FX リターン・レベルを上げます。エフェクトの種類は EFFECTS セレクターで選択します。：

リバーブ・エフェクト

- HALL 1：大きなコンサート・ホールのきらびやかな残響を付加します。ボーカルや楽器に適しています。
- HALL 2：大きなコンサート・ホールの温かい残響を付加します。ドラムやピアノなどの楽器に適しています。
- ROOM 1：中程度の部屋のきらびやかな残響を付加します。リードギターなどの楽器に適しています。
- ROOM 2：小さめの部屋の反射の多い残響を付加します。ドラムやパーカッション、エレキギターなどの楽器に適しています。
- ROOM 3：大きめの部屋の暖かい残響を付加します。アコースティック楽器に適しています。
- PLATE 1：長めのディケイを持つ、スムーズなボーカル用プレート・リバーブです。
- PLATE 2：中程度のディケイを持つ、ピンテージ・プレート・リバーブです。
- PLATE 3：短くきらびやかなプレート・リバーブです。繊細な音づくりに適しています。

モジュレーション・エフェクト

- CHORUS：短いディレイのモジュレーションにより、ゆっくりとしたツヤのあるコーラス効果を付加します。
- FLANGE：クラシックなフランジャーです。
- ROTARY：オルガンなどに使用される回転式スピーカーの効果をシミュレートします。ギターやボーカル、キーボード等に適しています。

ディレイ・エフェクト

- DELAY 1：フィードバックの無いシンプルなディレイです。ボーカルやリズム・ギターに適しています。
- DELAY 2：中程度の長さで、フィードバックありのディレイです。エコーを強調したいソロパートなどに適しています。

マルチ・エフェクト

- CHORUS - ROOM 1：遅めの CHORUS モジュレーションと ROOM リバーブの組合せで、スパーシーな効果を作ります。
- CHORUS - ROOM 2：速めの CHORUS モジュレーションと短い ROOM リバーブの組合せで、劇的なコーラス効果を作ります。

BYPASS：エフェクトをバイパスします。

付録

技術仕様

入力チャンネル	MIC INPUT 入力感度：-69 dBu ~ -19 dBu 公称、+14 dBu 最大 LINE INPUT 入力感度：-49 dBu ~ +1 dBu 公称、+18 dBu 最大 ギター入力感度：-49 dBu ~ +1 dBu 公称、+10 dBu 最大 MIC INPUT / LINE INPUT ゲイン・レンジ：-∞ ~ +20 dB
イコライザー	Hi：12 kHz, ±15 dB Lo：80 Hz, ±15 dB
AUX センド	ゲインレンジ：-∞ ~ +10 dB
AUX リターン	ゲインレンジ：-∞ ~ +10 dB
チャンネルレベル	ゲインレンジ：-∞ ~ +10 dB
USB オーディオインターフェース	サンプリングレート：44.1/48 kHz 解像度：16-bit インターフェース：USB 1.1 以上
SN 比	LINE：> 92 dB、(最大出力：JIS A ウェイト) MIC：> 62 dB
歪率	< 0.02%
周波数特性	LINE：20 Hz ~ 20 kHz (± 0.5 dB) MIC：20 Hz ~ 15 kHz (± 0.5 dB)
電源	18V DC、800mA、センタープラス
サイズ (w x d x h)	186 x 213 x 68 mm
重量	1.33 kg

仕様は予告なく変更になる場合がございます。

商標とライセンス

Alesis は、米国およびその他の国で登録されている inMusic Brands, Inc.の商標です。macOS は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc.の商標です。Windows は、米国およびその他の国におけるマイクロソフト株式会社の登録商標です。Pro Tools は、Avid Technology, Inc. またはその子会社の米国およびその他の国の商標または登録商標です。ASIO は、Steinberg Media Technologies, GmbH の商標およびソフトウェアです。その他の製品名、会社名、商標、または商号は、それぞれの所有者に帰属します。

